

様式1) プラットフォームの連携体制・中長期計画又は基本方針の概要図(1ページ以内)

○現状・課題、ビジョン・目標(一部の数値目標含む)、連携体制図(協議体制含む)、取組の抜粋等により、プラットフォームの全体像がわかるように作成してください。

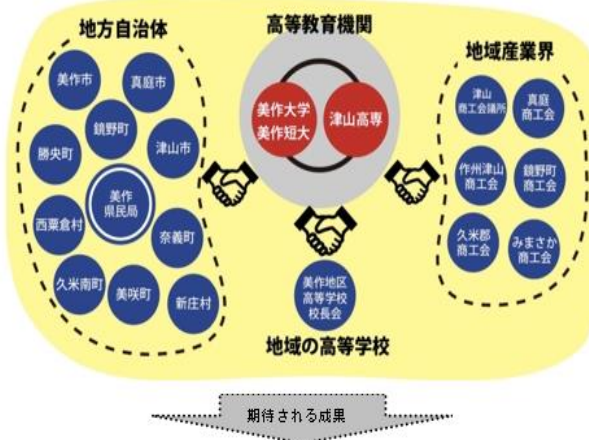
美作大学・同短期大学部、津山高専、美作地域を取巻く環境と課題

美作地域は中山間地域の真ん中に位置する津山市と周辺地域から構成され、少子高齢化、人口急減、農林業の衰退等、困難が直面する「地方の縮図」となっている。この地に立地する美作大学、美作大学短期大学部、津山工業高等専門学校等の高等教育機関は、地域の危機を前にして、国立・私立の枠を超えた連携を進め、自治体、産業界と持てる力を結集することで、地域創生の一翼を担う責務を負っている。この地域の人材育成ビジョンを明確にすることで、地域活性化に貢献する高等教育機関はその役割を果たすことができる。この地域の産業構造を踏まえたビジョンを産官学のプラットフォームにおいて協議し、共有化することで、高等教育機関が地域活性化の一翼を積極的に担うことが可能となる。

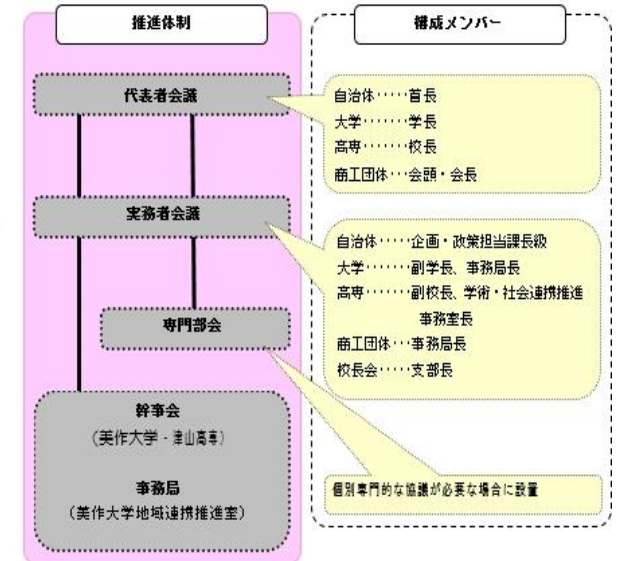
プラットフォーム形成の枠組み・目的・方向性

美作地域の高等教育ビジョンの策定を目的としたプラットフォームを、「美作地域の10市町村と岡山県美作県民局」「美作大学・美作大学短期大学部、津山高専」「美作地域の6商工団体」を軸として形成する。岡山県高等学校長協会美作支部を加えたプラットフォームでの議論を踏まえ、地域振興に不可欠な人材の育成を地域の各団体の協力・連携のもとで行うことを目標とする。県民局との連携により県北地域人材育成プランへとステップアップをはかる。

プラットフォームのイメージ



プラットフォームに関する推進体制



プラットフォームが掲げる数値目標

- 1) 美作大学、美作大学短期大学部、津山高専への美作地域からの進学者の増加
美作地域の高等教育機関への進学割合を33%から40%に増やす
- 2) 入学した学生の地元就職の促進
美作地域の高等教育機関から地元企業等への就職を61%から70%に増やす
- 3) 美作地域の高等教育機関の「知の拠点」化
 - 共同FD、SDの開催：年2回
 - 共同の講義の開発：2科目(SDGs共同宣言に係る授業)
 - 共同研究の振興：テーマ数3件以上
 - 公開講座等の共同企画・開催：年2回

美作大学・津山高専	美作地域の自治体
<p>1 地域の15歳、18歳人口の減少の加速</p> <p>2 高専の再編・統合の本格化</p> <p>3 高専卒業生と地域の労働市場との不一致</p> <p>4 美作大学の岡山公立大学との学生募集における競争激化</p> <p>5 美作大学、美作大学短期大学部の私学ゆえの授業料の相対的な高さ</p> <p>6 地方の貧困家庭の増加</p>	<p>1 人口減少と少子高齢化の進行</p> <p>2 グローバル化による地域企業の海外転移等により地域産業の先行きが不透明</p> <p>3 都市圏との競争激化</p> <p>4 地方分権の進行など自治体環境の変化と新たな政策対応の要求</p> <p>5 住民の行政への参画意識の高まり</p> <p>6 厳しい財政状況下での行政ニーズの発生と複雑化・多様化</p>
<p>①自治体、企業、住民のニーズに応える教育課程への改組転換、新学科設置</p> <p>②地域ニーズに即した教育課程への自治体、企業、市民の協力支援</p> <p>③それを担保する産官学の連携協定の締結</p> <p>④私学である美作大学、美作大学短期大学部に対する財政面での支援方法の検討</p> <p>⑤国、県の支援策への期待</p>	<p>① 新たな産業の創出と地域ブランドの開発</p> <p>② 地域資源の活用と魅力アップ</p> <p>③ そのために必要とされる人材の確保</p> <p>以上3点を推進するために、 高専、美作大学、美作大学短期大学部との連携強化 → 産官学の連携強化</p> <p>④ 協働による新たな地域システムの構築</p>

- 期待される成果
- ・「自治体・教育機関・産業界が既に持つ経営資源と将来構想を連携させ、単独では達成できない地域の人材育成と知的資源の確保を実現する」
 - ・「地域振興の方向性と人材育成の方向性の間で一体的なコンセンサスを得る」
 - ・「地域から流出する地域の若者を、地域の大学、短大、高専の改組、学科新設等により、学ぶ選択肢を広げることで、流出を防ぐ」
 - ・「自治体・教育機関・産業界の協力により、人的・財政的な資源を人材育成、教育に効率的に投下する」
 - ・「美作大学・同短期大学部と津山高専の学術分野、専門性、人材を相互に活かし、地域貢献において相乗効果を得る」

様式2) 数値目標・活動指標等シート(4ページ以内) 発展型IIは必須。スタートアップ型は任意で提出してください。					
課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価
プラットフォームを構成する高等教育機関への美作地域からの進学率の増加	プラットフォームを構成する高等教育機関への美作地域からの進学率が33%程度であることを、40%程度に引き上げる。	<p>(取組1)</p> <p>美作地域全域にプラットフォームの枠組みを広げる。</p>	<p>(取組1の活動指標)</p> <p>プラットフォームに美作地域全10自治体及び岡山県美作県民局及び地域校長会の参加を実現する。</p> <p>①プラットフォームを構成する高等教育機関(3校)との包括連携協定を美作地域の全ての自治体・行政機関と締結する。</p> <p>②プラットフォームを構成する高等教育機関との包括連携協定を美作地域の全ての商工会議所、商工会と締結する。</p> <p>③プラットフォームを構成する高等教育機関との包括連携協定を締結した全ての自治体・行政機関、商工団体の、プラットフォームへの参加を達成する。</p> <p>④私学を含む全ての美作地域の高校の学校長によって組織されている校長会の参加を得る。</p>	※次年度以降記入	
		<p>(取組2)</p> <p>各界からの高等教育機関への人材育成ニーズや動向の把握、分析する。</p>	<p>(取組2の活動指標)</p> <p>地域の全自治体、岡山県美作県民局、商工団体、校長会から、地元に必要なとされる人材ニーズ並びに動向を把握し、そのうえで分析並びにビジョン原案作成のために、プラットフォームを構成する高等教育機関で分析、協議を行う。</p> <p>①美作地域の全10自治体について、高等教育施策を総合計画から確認し、直接的な聞き取りを行う。</p>		

			<p>②プラットフォームを構成する全ての団体を訪問し、聞き取り調査を行い、地域に必要とされる人材に係る現状認識・課題、人材像、人材育成において、地域の高等教育機関に求めること、具体的な学科像などを明確にする。</p>		
		<p>(取組 3) 地域が必要とする、あるいはこれから必要とされる人材ビジョンの策定とそれに対応できる人材育成ビジョンを策定し、提案する。</p>	<p>(取組 3 の活動指標) ①プラットフォームを構成する高等教育機関において、聞き取り結果の分析・解析、その結果を短期及び中長期ビジョンに落とし込むための検討を行う。プラットフォームとして地域の意見を踏まえながら、教育課程の検討や実現可能な新学科設置や学科改組を検討する。 数値目標: 幹事会を年間 10 回以上開催する。 ②ビジョンをまとめる過程で、必要に応じプラットフォーム代表者会議、実務者会議を開催する。 数値目標: 代表者会議あるいは実務者会議を年間 2 回以上開催する。</p>		
		<p>(取組 4) 地域のニーズに基づいた、教育課程の検討や実現可能な学部・学科の設置により、プラットフォームを構成する高等教育機関への美作地域からの進学率を向上させる。</p>	<p>(取組 4 の活動指標) ①プラットフォームを構成する高等教育機関において、5 年以内を目処に、地域のニーズを反映した、教育課程の検討や実現可能な学部・学科を新設し、入学定員の増加をもって美作地域からの高等教育機関への進学率を 40%程度にまで引き上げる。 数値目標: プラットフォームを構成する高等教育機関への美作地域からの進学率を 40%に向上させる。</p>		

スタートアップ型) プラットフォーム名 美作地域人材育成プラットフォーム

<p>美作地域の高等教育機関に入学した学生の地元就職の促進</p>	<p>プラットフォームを構成する高等教育機関からの地元企業への就職率が61%程度であることを、70%程度に引き上げる。</p>	<p>(取組1) 地域のニーズに基づいた、実現可能な学部・学科の設置により、プラットフォームを構成する高等教育機関から美作地域の企業への就職率を向上させる。</p>	<p>(取組1の活動指標) 地域のニーズに応じた学部・学科の設置により、プラットフォームを構成する高等教育機関からの学生の地元企業への就職実数を、10年以内を目処として20名程度増やし、就職率を61%から70%程度にまで増やす。 数値目標：プラットフォームを構成する高等教育機関からの地元企業への就職率を70%程度に向上させる。</p>		
<p>美作地域の高等教育機関の知の拠点化</p>	<p>プラットフォームを構成する高等教育機関での共同の事業を、5年以内を目処に4つの観点で増やす。</p>	<p>(取組1) 共同FD、SDの開催</p>	<p>(取組1の活動指標) 共同のFD、SDをテーマとした研修会を年2回以上、企画し開催する。</p>		
		<p>(取組2) 共同の講義の開発</p>	<p>(取組2の活動指標) 共同で講義科目の開発を行う。SDGs共同宣言に係る授業科目として2科目を開講する。</p>		
		<p>(取組3) 共同研究の振興</p>	<p>(取組3の活動指標) 共同研究を推奨し、テーマ数を現在の1件から3件以上に増やす。</p>		
		<p>(取組4) 公開講座等の共同企画・開催</p>	<p>(取組4の活動指標) 公開講座等を年2回、共同で企画し、開催する。</p>		